

天文学とプラネタリウム

第32回



今月のお題

天プラ式天文クラブ



都会の小中学生にも夜空を楽しむ目を。
理科室から宇宙の果てまで駆け巡る天文クラブ活動の紹介です。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東大D2/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D2/国立天文台ALMA推進室所属)

皆さんは小中学校時代、どんなクラブ活動をされていましたか？ 天文に関連するクラブがありましたか？筆者(平松)の場合は天文クラブがなかったので、将棋をやっていたりしました。天文クラブは活動が夜になりがちですから、なかなか難しい面もあるのでしょうか。

偶然？必然！

とそんなことを考えていた天プラのもとに、三鷹のとある小学校でクラブ活動を支援しないかというお誘いが舞い込みました。最近天プラでは国立天文台のある三鷹地域に根ざした天文普及活動が続けているのですが、その活動の一環として、です。

クラブ活動を支援しているNPOの方からの提案だったのですが、活動中のクラブ一覧を見てびっくり。スポーツや音楽はあるのですが、理科系のクラブはゼロだったのです。せっかく天文台も近くにあるし、天文やってる学生もたくさん近所に住んでいるし、東京とはいえ都心よりは星が見えるので、天文クラブの活動にとっ

て恵まれた環境が整っているのです。しかもこの小学校は国立天文台の海部前台長の母校でもあるのです。これはもう、天プラ式天文クラブを立ち上げるには絶好の場所です。

科学特”査”隊、始動。

活動案内に応じて集まってくれた子ども達はおおよそ40人。高学年には塾で忙しい子が多いようで、低学年中心の構成となりました。大人向け、シニア向け、若者向けといろいろやってきた天プラの活動ですが、これだけたくさんのお小さな子供たちに相対する経験はあまりなく、どれくらいの知識や言葉を前提に話をすれば天文の面白さが伝わるのか、少し不安でした。

オーソドックスな星座の話、オリジナル星座や宇宙生命体を考えるワークシート、太陽系の大きさを実感する活動、天文ソフト“Mitaka”を使った宇宙の果てまでの旅行、そしてもちろん望遠鏡を使った実際の観察まで、手加減のない様々なメニューを用意しました。結果、子ども達はとても興味を持ってついてきてくれました。特に冥王星関連のニュースははかなり浸透してい

■三鷹市主催神沢利子展に協力(?)中!



宇宙科学特査隊・アストロクラブ会員証。
宇宙の謎にみんなで立ち向かおう!

るようで、なぜあの議論に至ったかをちゃんと説明できる男の子や、「冥王星の名前は変わらないの?」という鋭い質問をしてくれる1年生の女の子もいました。いや、子ども達の興味力は物凄いですね。この子たちが大きくなって天文への興味を失わず「あのときのクラブ活動面白かったな」と思い出してくれるような活動がこれからもできればいいなと思っています。